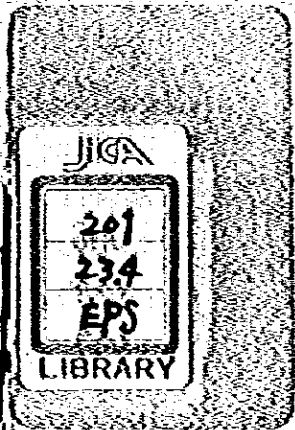


オーストラリア移住者実態調査

昭和56年3月

国際協力事業団



国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. - 3	201
登録No. 02431	23.4
	EPS

はじめに

当事業団がオーストラリア移住をその業務に加えたのは、昭和52年度以降である。この間外務省、労働省の協力も得て三度の調査チームを現地に送り、オーストラリアの移住政策、移住者援護制度等を調査して来た。同時に昭和54年2月にはキャンベラに駐在員事務所を開設し、又、在日オーストラリア大使館とも密接なコンタクトを続けつゝ各種情報、資料の収集に努めてきた。

一方、移住希望者が最も知りたい点はずでにオーストラリアに移住した日本人の具体的な就労や生活状況であることは、他の国への移住相談の場合と同様である。しかしながら、この種調査は移住者のプライバシーにかゝわることもあって、必ずしも実施が容易とはいえない場合が少なくないが、幸い今般移住者の方々のご理解とご協力を得て、キャンベラ駐在員による本報告書を取りまとめることができた。

業務上参考となる点も多く、大いに活用願いたい。

本調査にご協力下さった移住者の方々に厚くお礼申し上げます。

昭和56年3月

移住計画調査部長

JICA LIBRARY



1042711(0)

在 $z = 0$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 0} z f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 0$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = \infty$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow \infty} z f(z) = 0$, 故 $f(z)$ 在 $z = \infty$ 处有一阶极点, 且留数为 0.

在 $z = 1$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 1} (z-1) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 1$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -1$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -1} (z+1) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -1$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = i$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow i} (z-i) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = i$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -i$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -i} (z+i) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -i$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 2$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 2} (z-2) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 2$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -2$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -2} (z+2) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -2$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 3$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 3} (z-3) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 3$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -3$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -3} (z+3) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -3$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 4$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 4} (z-4) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 4$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -4$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -4} (z+4) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -4$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 5$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 5} (z-5) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 5$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -5$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -5} (z+5) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -5$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 6$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 6} (z-6) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 6$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -6$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -6} (z+6) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -6$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 7$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 7} (z-7) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 7$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -7$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -7} (z+7) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -7$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 8$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 8} (z-8) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 8$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -8$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -8} (z+8) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -8$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = 9$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow 9} (z-9) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = 9$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

在 $z = -9$ 处, $f(z)$ 有极点, 且 $\lim_{z \rightarrow -9} (z+9) f(z) = 1$, 故 $f(z)$ 在 $z = -9$ 处有一阶极点, 且留数为 1.

目 次

I	調 査 の 概 要	1
	1. 調 査 目 的	1
	2. 調 査 時 間	1
	3. 調 査 方 法	1
II	調 査 結 果	2
	1. 回 答 状 況	2
	2. 回 答 者 の 状 況	3
	3. アンケート調査結果	8

1 調査の概要

1. 調査目的

移住相談において、移住の手続や資格要件、移住先国の一般状況を詳細かつ正確に説明、指導することが必要なことは当然であるが、同時に日本人のオーストラリア移住者の実態を把握し、又、彼等の考え方を知り、その具体例を示すことが非常に有用である。しかし、事業団がオーストラリア移住を取扱い始めて日も浅く、こうした点での資料は少なく相談に具体性を欠いていた点は否めない。

こうした点を認識し、オーストラリアにおける日本人移住者の実態調査を実施すると同時に、就職、英語力、対人関係等についてのアンケート調査を実施する。

2. 調査時期

昭和55年12月

3. 調査方法

- (1) 在豪日本大使館およびブリスベン、シドニー、メルボルン、パース各総領事館の資料より近親呼寄による移住者（花嫁）を除く永住権取得者のリスト（総数170名）を作成した。
- (2) 本リストに基づき、調査票（資料1）及びアンケート調査票（資料2）を郵送し、回答を得た。

II 調査結果

1. 回答状況

昭和56年2月10日現在の回答状況は表1の通り。

(表1) 回答状況

地 区	調査件数	回答件数	宛先人不在による文書返戻	回答なし
在オーストラリア大使館管轄	7	5	0	2
在ブリスベン総領事館管轄	25	9	3	13
在シドニー総領事館管轄	38	14	3	21
在メルボルン総領事館管轄	79	15	17	47
在パース 総領事館管轄	21	3	1	17
合 計	170件	46件	24件	100件

回答46件のうち5件は近親呼寄による移住(花嫁)のカテゴリーの者であることが判明した。

一方、回答なし100件のうち5件は第3者の情報提供から不在であることが判明した(4件は他所に転居、1件は日本帰国済)。個々のチェック、或は一般情報から察するに、宛先人不在による文書返戻24件および回答なし100件のうち2割は帰国済、或は近親呼寄による移住のカテゴリーの者であり、残りの8割は本調査対象の移住者としてオーストラリアに居住しているものと推定する。

他方、本調査に附随して依頼した情報提供から名簿もれの移住者33家族が判明した。

以上を合計するとオーストラリアに居住する近親呼寄以外の移住者は173家族となる。

今回表に出なかった移住者(主にシドニー地域)を加えると総数200家族前後と推定する。

今回の調査に対する移住者からの反応は僅か2件であった。

1件はJICA事務所の開設を評価、移住者相互の連絡強化をうったえた手

(表2) オーストラリア在住移住者推定

地 区	回 答 者	推定居住者	居住判明者	合 計
キャンベラ	5	2	—	7
ブリスベン	4	13	6	26
シドニー	12	19	5	36
メルボルン	14	51	21	86
パース	3	14	1	18
合 計	41	99	33	173家族

(注) 近親呼寄せ移住者を除く。

紙であったが、他の1件はオーストラリアはプライバシーを重視する国であり移住者名簿を勝手に作成配付されることはまことに迷惑であるといった内容の匿名の手紙であった。

名簿を作成配付した目的は、名簿を足がかりとする情報提供を期待するとともに、移住者自身も相互連帯を必要としていると考えたからである。

しかし、日系コミュニティの存在しないオーストラリアに移住し、オーストラリア人社会の中で人生を切り開いてきた彼等にとって、日本人どうしのつながりは精神的安定剤としての効果は認めても、そのために自己をさらけ出すことはすでに身についた西歐的観念からすれば耐えがたいことなのかもしれない。

今回の調査依頼に対し、移住者側から当事務所への要求、要望が出てくるものと予想していたが皆無の結果に終わった。

これら一連の事実は、移住者が自立心旺盛にして立派にやっていることの証拠と思う。

それでは相互連帯を必要としないのかということ必ずしもそうは言い切れない面が多々あることは事実であり、今後の当事務所のあり方ともからんで慎重に配慮すべき事項と思われる。

2. 回答者の状況

回答状況の項で述べた通り、回答総数は46名であったが、内5名は近親呼

寄移住者であったため、今回、調査対象から除外した。調査対象者41名についての実態を資料1の調査票にもとずき整理すると以下の通りであった。

① 男 女 別

男 性 32名(平均年齢 39才)

女 性 9名(, 40才)

② オーストラリア在住期間

在 豪 年 数	(男 性)	(女 性)
1 年 未 満	— 名	— 名
2 年 ,	4	—
3 年 ,	1	—
4 年 ,	—	1
5 年 ,	2	1
8 年 ,	8	3
11 年 ,	6	4
14 年 ,	2	—
17 年 ,	6	—
20 年 ,	2	—
55 年 ,	1 { 本件本曜島居住 者で55年在住 の特例	—
合 計	32名	9名
平 均	10年8ヶ月	7年1ヶ月

(注) 特例1件を除くと男性の平均在豪年数は9年4ヶ月

③ 入 国 形 態

	(男 性)	(女 性)
永 住 査 証	12名	2名
一 時 滞 在 査 証	13 (但し、 ^{4年4ヶ月} 特例37年 のケースを除く)	2 (4年6ヶ月)
観 光 査 証	3 (2年)	2 (1年6ヶ月)
学 生 査 証	4 (6年9ヶ月)	—
記 載 な し		3
合 計	32名	9名

(注) ()内は永住査証を取得するまでの平均年月

④ オーストラリア市民権

	(男 性)	(女 性)
取 得 済	5名	1名
取得していない	27	8
合 計	32名	9名

(注) オーストラリア政府関係に勤務する場合、市民権を持っていると年金等で恩恵がある。

上記取得済は政府関係に勤務している者が多い。

⑤ 家 族 状 況

男性32名について

妻 帯 者	21名	{ 妻の国籍 日 本 人 14名 日 系 人(帰化済) 2名 オーストラリア人 4名 アメリカ人 1名 子供の数は平均 1.8名

独 身 者 11名

女性9名について

全員独身 実子および実母と同居の者が各1名いる。

(6) 最終学歴

	(男 性)	(女 性)
小 学 校 卒	1名	—
高 校 卒	8名	3名
大 学 卒	23名	6名
合 計	32名	9名

(7) 職 業

(男性について)

大学教授、講師(社会学、日語2、数学、経済)	5名
高 校 教 師(体育)	1
特殊学校教師(心身障害児)	1
政府研究所研究員	1
コンピューター技術者	3
自動車技術者	1
建築技術者	1
カメラ技能者	2
機械修理技能者	1
土木技能者	1
水産関係技能者	1
造園技能者	1
オーケストラ団員	1
会社役員	1
会社事務員	3
水産関係コンサルタント	1
日本料理店経営	2
貿易会社経営	1

カメラ店経営		1 名
空手道場経営		1
コック		1
無職		1
合 計		3 2 名

自営業、無職を除く 23 名に関し、勤務先の形態は次の通りである。

資 本 形 態	オーストラリア系	1 6 件
	日 本 系	6
	そ の 他 (中国系)	1
	合 計	2 3 件

官 民 の 別	政 府 系	9 件
	民 間 系	1 4
	合 計	2 3 件

(女性について)

大 学 講 師 (社 会 学)		1 名
高 校 教 師 (日 本 語)		2
秘 書		1
事 務 員		2
店 員		1
不 明		2
合 計		9 名

資 本 形 態	オーストラリア系	6 件
	日 本 系	1
	合 計	7 件

官 民 の 別	政 府 系	5 件
	民 間 系	2
	合 計	7 件

⑧ 労働時間

週5日制で1日当り7～8時間勤務が殆んどである。

3. アンケート調査結果

(1) 就職問題

(質問1) オーストラリアに到着後、如何なる求職活動を行ないましたか。

	(男 性)	(女 性)
到着前に決定済	10 件	
新聞広告を利用	3	1 件
職 安 訪 問	4	1
職歴、ライセンスを関係会社に送付	1	2
民間職業紹介所に登録	1	

(注) 到着前に決定済のケースは教職関係6名、カメラ技能者2名、自動車技術者1名(日本の同系列会社で勤務していた)、会社役員1名についてである。

職歴、ライセンス送付に関し、1女性は日本語講師を希望して日本語の科目を持つハイ・スクールに就職依頼書を送付したが回答は1件もなかったと述べている。

(質問2) 就職までに要した期間は。

オーストラリアに到着後、就職活動を行なったケースについてのみとりまとめると次の通りである。

	(男 性)	(女 性)
回 答 件 数	10 件	4 件
平 均 期 間	6.5ヶ月	3ヶ月

(注) 男性については特例が1件あり(就職先の会社の事情から決定まで2ヶ月待たされた), これを除くと就職までに要した期間は平均4.5ヶ月となる。

(質問3) 就職に際しての最大の障害は何でしたか。或は日本人移住者にとって就職に際しての障害は何と思いますか。

英語力の不足	19	件
免許制度の違い	3	件
技術資格を持たなかったこと	2	件
技術資格の切換に時間を要した(1.3年)ため、この間労働組に加入できなく、優良会社への就職は不可能であった。	1	件

(注) 本件1972年移住の熟練工

ホワイト・オーストラリア	1	件
就職できる職種が限られていること	1	件
日本人どうしの協力がない	1	件
習慣の相違	1	件
移住者が就職する場合、自己の実力以下のレベルで妥協しなければならない	1	件

(質問4) オーストラリアにおける転職の経験は。

		(男 性)	(女 性)
な い		18件	7件
あ る	1 回	7	1
	2 回	5	
	3 回	2	1

(質問5) オーストラリアで今後有望(需要が高い)と思われる職種、或は技術の種類は何ですか。

コンピューター	10	件
自動車整備	6	件
旅行・サービス関係	5	件
鉱山資源開発関係	4	件

機 械	4	件
電 気	4	件
水産・養殖	3	件
日本レストラン	3	件
エレクトロニクス	2	件
土木・建築	2	件
公認会計士	2	件
外国語教師	2	件
水道工事技能者	1	件
金融・証券関係	1	件
弁 護 士	1	件
商業デザイナー	1	件
特 に な し	2	件

(質問6) 日本人移住者の進出が容易と思われるのほどのような職種、或は分野ですか。

自動車整備	7	件
日本レストラン	6	件
日本語教育	6	件
コンピューター	5	件
電 気	5	件
旅行・サービス関係	3	件
機 械	3	件
公認会計士	2	件
工 芸 家	2	件
柔道・空手	2	件
エレクトロニクス	1	件
大 工	1	件
美容・美容士	1	件
製 図 工	1	件
マ ッ サ ー ジ	1	件
T V 修 理	1	件

イラストレーター	1 件
数 金 工	1 件
塗 装 工	1 件
看 板 書 き	1 件
精 密 機 器	1 件
農 業	1 件
弁 護 士	1 件
水 産 業 (但し、資本があれば)	1 件
自 然 科 学 者	1 件
秘 書	1 件
デ ザ イ ナ ー	1 件
進出分野はせまい	2 件
英語力があればどの分野も有望	1 件
終身雇用が少ないことに留意すべき	1 件

(注) 質問5のオーストラリア有望職種トップにあげられたコンピューターが、本項ではランク落ちをしている。

英語力のウエイトが軽い技術分野、或いは日本レストラン、日本語教育など日本の特殊性を生かした分野への進出を容易とする者が多い。

(質問7) 逆に、日本人移住者の進出が容易でないと思われる職種、或は分野は何ですか。

公 務 員	7 件
政 治 家	4 件
弁 護 士	4 件
肉 体 労 働 者	3 件
教 師 (除日本語)	3 件
医 者	3 件
事 務 員	2 件
ジャーナリスト	2 件
金 隊 業	2 件
平均的オーストラリア人が働く分野	2 件

非技術職一般	1	件
不動産業	1	件
繊維関係	1	件
労組幹部	1	件
証券業	1	件
高度の英語力を要する仕事	1	件

(質問8) 後続移住者に対してアドバイスがあれば。

英語が堪能なること、マスターしてくること	4	件
技術を身に付けてくること	4	件
オーストラリア人との人間関係の隆立 (早くオーストラリア人の友人を見付けること)	3	件
他人に干渉するな	1	件
三気(のん気、やる気、根気)の維持	1	件
日系企業で働く場合、駐在員との関係を浅くすること。オーストラリア人にとけ込む時間がなくなる。	1	件
「すでに西欧に学ぶことなし」といった自惚れを捨て、個人に戻ること	1	件
日本の学卒証明書、ライセンス等全て英語に翻訳してくること	1	件
世界どこに住んでも自力で暮らせる技術を持たないのなら移住しないこと	1	件
国際感覚を身に付けてくること	1	件
オーストラリアに来たのち、日本人だけでかたまらないこと	1	件
語学力のハンディを解決すること、すなわちオーストラリアで大学に入りなおし、専門資格をとること	1	件
オーストラリアに同化する努力を続けること(疎外感にさいなまれるが決意と努力が必要)	1	件
本人および家族がオーストラリアに骨をうめる覚悟をしてくること	1	件
一かく千金の夢は禁物	1	件

転職は容易でないので石橋をたいてから移住した方がよい	1 件
移住決意前に一度オーストラリアに来て見る事が大切	1 件
外国生活は楽でないことを予め十分に認識すること	1 件

(2) 英語問題

(質問1・2) 貴方の現在の英語に関する習得度は。そのためにオーストラリア入国後どの位の期間を要しましたか。

A 新聞を読解できる。

「読解できる」と答えた男女32名について

入国時すでに読解できた者	11 名
入国後読解できるようになった者	22 名
それに要した年月の平均は	3年8ヶ月

B 仕事上不自由なし

「不自由なし」と答えた男女26名について

入国当初から不自由でなかった者	7 名
一定期間後不自由でなくなった者	19 名
それに要した入国後の平均年月は	2年3ヶ月

C 日常生活に不自由なし

「不自由なし」と答えた男女18名について

入国当初から不自由でなかった者	6 名
一定期間後不自由でなくなった者	12 名
それに要した入国後の平均年月は	1年10ヶ月

D 日常生活にも不自由する

該当者なし

(質問3) 英語を習得するためオーストラリアに到着後学校に行きましたか。

回答者男女39名のうち

学校に行った者	11名
学校に行かなかった者	28名
通学した学校の種類は次の通りである。	
移民省英語学校	7名
州立英語学校	1名
市立小学校	1名
成人用専門学校	1名
適当りの通学日数	2～5日
1日の学習時間	2～6時間
在学期間	3ヶ月～2年
各人各様の勉強コースをとっており、平均値を算出しても意味がないと思われる。	

(質問4) 英語を習得する最良の方法は何ですか。

積極的にオーストラリア人の中に入ること	12件
日本人とつき合わないこと	5件
学校に行くこと	4件
新聞、ラジオ、TVの活用	3件
本をできるだけ多く読む	2件
恥を恐れず英語を使う	2件
毎日、読み、書き、話す。わからないことは調べて積み重ねをする	2件
とにかく話す	2件
オーストラリア人の家庭に入る	1件
本を暗唱し、それを基本に発展させる	1件
必要以上に話すこと、聞くこと	1件
何でも口に出して読むこと	1件
オーストラリア人に発音してもらい、習得すること	1件
待たなしで辞書を引くこと	1件
あるがまいの、ありあわせの言葉を受入れていくこと	1件
英語で物事を考え、意志疎通をすること	1件
若いうちに猛烈に勉強すること	1件

基礎的文法の復習	1 件
日本で文法の基礎を完全に習得すること	1 件
外国語としてあまり意識しないこと	1 件

(質問5) 英語に関し、後続移住者にアドバイスがあれば。

日本で基礎的勉強をしっかりとすること	10 件
移居前、最低日常会話に不自由でない程度のレベルであるべきである	2 件
米豪後、日本人と付き合わないこと	2 件
いゝ英語で話そうとするより、積極的に相手に自分の意志を伝えようとする	2 件
オーストラリア・アクセントは慣れゝばなんでもないので、気にしないで話すこと	1 件
日本で学んだ英語(特に発言)はすぐに使いものにならないことを認識すること	1 件
レコード、TV、ラジオを利用して訓練すること	1 件
米豪後、言葉だけでなく、オーストラリア人の考え方、国民性など理解するよう心がけると相応の英語力が身に付く	1 件
発音など気にしないで文法のしっかりした英語を話すこと	1 件
分からないことは恥づかしがらないで聞き返すこと	1 件
オーストラリア英語はスラングがふんだんに折り込まれていることを予め覚悟すべきである	1 件
語学でなく言葉であると初めに思うべき	1 件

③ オーストラリア人との関係

(質問1) オーストラリア人の印象について

① 好ましい点は何か。

親切	14 件
気取らない、フランク	7 件
個人主義	6 件
人柄や態度が明るく、親しみやすい	6 件
楽天的	4 件

人生をエンジョイする	3	件
素朴	3	件
人が好い	2	件
日本人に悪くない	2	件
人間どうしは平等（社会的地位に関係なく）	2	件
自然を愛する	2	件
合理的	1	件
男女平等	1	件
改良に熱心	1	件
はっきり物を言う	1	件
根は善良の人が多	1	件
人種差別意識が比較的少	1	件
公私の区別がはっきりしている	1	件
偉大なる田舎者	1	件

② 問題点は何か。

仕事に不熱心	6	件
責任感がない	4	件
easy going	3	件
個性が強すぎる	2	件
保守的	2	件
のんびりしすぎる	2	件
移住者の苦勞が分らない	2	件
利己主義	2	件
視野が狭い	1	件
マイ・ホーム主義	1	件
国民意識に乏しい	1	件
日本の悪口をすげすげ云う	1	件
短気	1	件
全ての点に慍心がない	1	件
飲酒量が多すぎる	1	件
外国人を嫌っている	1	件

文化性がない	1 件
女がいぼりすぎる	1 件
他人を理解する努力をしない	1 件
英国風にしたがる気風が強い	1 件
心がせまい	1 件
権威主義	1 件

(質問2) 日本人がオーストラリア社会で成功するためには如何にあるべきと思いますか。

オーストラリア社会に同化しつつ、かつ日本人としての知識、技術の裏付けの上になつて自信を持って行動すること	5 件
オーストラリア社会を理解するよう努力すること、その中で自分の個性を生かすこと	4 件
日本人どうしでかたまらないこと	3 件
オーストラリアに欠ける日本の技術を導入すること	2 件
早くオーストラリア社会にとけ込み、自信を持つこと	2 件
目標を高く持たないでリラックスしてやること	1 件
日本人が互いに協力しあうこと、但しかたまるの意味ではない	1 件
自己主張ができるようになること	1 件
専門技術資格を持つこと	1 件
オーストラリア人になりきり、向上につとめること	1 件
良い意味で現地化されず、新鮮な日本人であること	1 件
節度、素直、勤勉	1 件
風俗、習慣をよく理解すること	1 件
まじめに働き、オーストラリア人をたてること	1 件
オーストラリア人と持ちつ持たれつの関係になること	1 件
成功するとかしないとかあまり考えないこと	1 件
日本人で成功する人はオーストラリアでも成功する	1 件
オーストラリア社会で成功するという考えよりも、むしろオーストラリアに日本人として何を貢献できるかという考えでなければ、移住すべきでない	1 件

「沈黙は金なり」は通用しない。意見をはっきり相手に伝えること 1 件

(資料1)

調 査 票

1980年12月 日現在

1. 一 般 状 況

氏 名				
生年月日	19 年 月 (満 才)	着寮年月	19 年 月	
出身 県	都・道・府・県		兄弟・姉妹 名で (続柄)	
最終学歴	中退・卒業			
専門技術				
入国形態	A. 永住査証 B. 一時滞在査証 D. 学生査証 C. 観光査証			永住権取得年月 19 年 月
オーストラリア市民権	A. 取得済 取得年月 19 年 月 B. 取得していない			
家 族 氏 名	続柄	年令	国 籍	職業・勤務先または学校名・学年
1				
2				
3				
4				
5				
6				
現住所	郵便番号		電話	
日本国内連絡先 及び氏名				続柄

2. 就 労 概 況 (自営者は3に記入して下さい)

就労会社・店名・学校名			
所在地			
資本形態	A. 日系企業 B. オーストラリア企業 C. 外国()系企業		
営業内容		従業員数	名
労働時間	週 日割	午前 時 ~ 時 午後 時 ~ 時	定休日 曜日
担当している仕事の内容			

3. 自 営 概 況

経営する会社・店名			
所在地	電話		
営業内容			
設立年月	19 年 月	従業員を持つ場合	名

お願い 空白部分に記入して下さい。

A・B……… 部分は○でかこんで下さい。

(資料2)

アンケート調査票

1. 就職問題

- (1) オーストラリアに到着後、如何なる求職活動を行ないましたか。(経験者についてのみ記入して下さい)
- (2) 就職までに要した期間は。
____ヶ月 ____日
- (3) 就職に際しての最大の障害は何でしたか。或は、日本人移住者にとって就職に際しての障害は何と御いますか。
- (4) オーストラリアにおける転職の経験は。
A. ある ____回
B. な い
- (5) オーストラリアで今後有望(需要が高い)と思われる職種、或は技術の種類は何れですか。

(6) 日本人移住者の進出が容易と思われるのどのような職種、或は分野ですか。

(7) 逆に、日本人移住者の進出が容易でないと思われる職種、或は分野は何ですか。

(8) 後続移住者に対してアドバイスがあれば。

2. 英語問題

(1) 貴方の現在の英語に関する習得程度は。

- A. 新聞を読解できる
- B. 仕事上不自由なし
- C. 日常生活に不自由なし
- D. 日常生活にも困る

(2) 上記の条件を満たすのに、オーストラリア入国後どの位の期間を要しましたか。

- A. について _____ 年
- B. , _____ 年 ___ ヶ月
- C. , _____ 年 ___ ヶ月

(3) 英語を習得するためオーストラリアに到着後、学校に行きましたか。

A. 行った → 学校の種類 _____

B. 行かない _____

週 当 り _____ 日 学 習

1 日 の 学 習 _____ 時 間 _____

在 学 期 間 _____ 年 _____ ヶ 月

(4) 英語を習得する最良の方法は何ですか。

(5) 英語に関し、後続移住者にアドバイスがあれば。

3. オーストラリア人との関係

(1) オーストラリア人の印象について

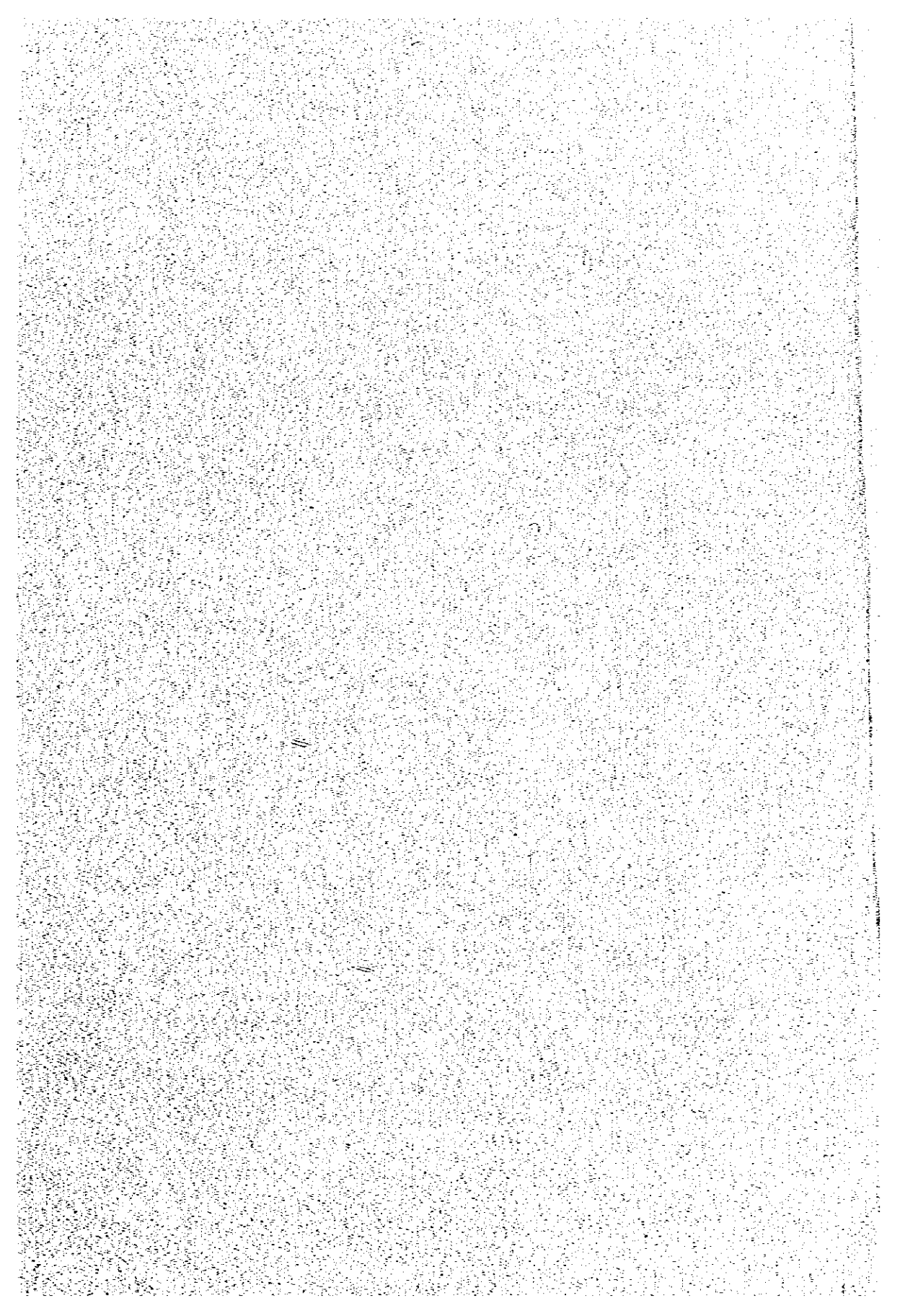
好ましい点

問題点

(2) 日本人がオーストラリア社会で成功するためには如何にあるべきと思いますか。

— x — x — x — x — x — x — x — x —

名簿の訂正、追加、削除等、下部分に記入を願います。



JICA